

第5学年 社会科学学習指導案

令和7年9月24日(水)
場所 5年2組 教室

1 単元名 未来を支える食料生産 小単元名 水産業のさかんな地域

2 目標

我が国の水産業に関心をもち、水産業が自然環境を活かして国民の食生活を支えていることや、魚介類の輸入、水産業に従事する人々の工夫や努力、輸入の働きを理解し、水産業の発展について考えることができるようにする。また、我が国の水産業の様子から学習問題を見だし、資料を活用して調べたことをノートなどにまとめるとともに水産業の様子と自然環境、わたしたちの生活を関連付けて思考・判断したことを適切に表現できる。

3 評価規準

- 日本の水産業の特色や現状、水産業に従事している人々の工夫や努力を理解することができる。
(知識・技能)
- 水産業を取り巻く様々な問題点に気付き、これからの水産業の発展について考え、分かりやすく表現することができる。
(思考・判断・表現)
- 我が国の水産業の様子に関心をもち、意欲的に調べたり考えたりすることを通して、国民の食生活を支える我が国の水産業の発展を考えようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元について

本内容は、主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものであり、我が国の農業や水産業における食料生産についての学習で身に付ける事項を指している。我が国の農業や水産業における食料生産とは、米、野菜、果物などの農産物や畜産物を生産する農業や、魚介類を採ったり養殖したりする水産業を指している。

ここでは、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、食糧生産の概要を捉えるとともに、食糧生産が国民に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにすることがねらいである。

5 児童の実態

児童は、これまでに我が国の食料生産について、「米づくりのさかんな地域」を学習している。「米づくりのさかんな地域」では、米づくりに適した自然環境、農家の人たちの米づくりの工夫や努力、農家を支える様々な仕組み、米の流通経路、農家が抱える課題について学習してきている。この学習から、わたしたちが普段食べている米は、適した自然環境のもとで生産され、それらを生産する人々は、多くの工夫や努力をしていることを学習している。本単元でも、水産業は自然環境と深い関わりをもつこと、水産業に携わる人々の工夫や努力があることを理解できるような単元づくりにしていきたい。そして、日本の水産業の課題解決に向けて話し合い活動を通して、児童の考えを深めていく。

6 研究の視点（子供の思考を促す教員のはたらきかけ）

【A 主体的に取り組める学習課題の設定】

- ・資料をロイロノートで配布し、児童が自分の手元で見えるようにする。
- ・考えを書く時には、例示し、参考にさせる。

【B 学びを振り返り掲示や環境デザイン】

- ・提示する資料を限定し、考える範囲を絞ることで、思考の土台を共通にする。

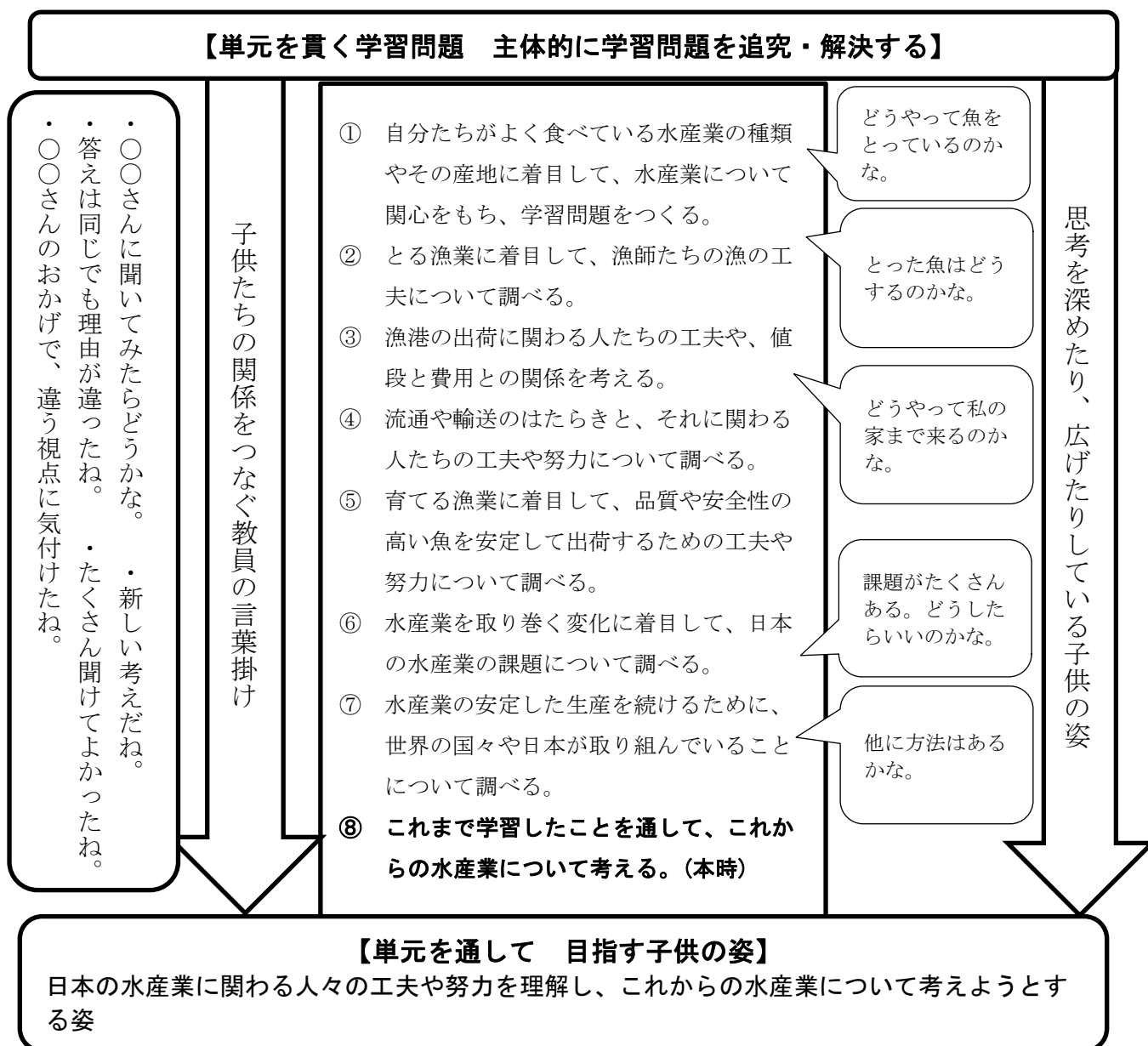
【C 一人一人のよさや可能性を引き出す学び合いの充実】

- ・課題を自分で選択をすることで、主体的に取り組めるようにする。

【D 協働的に学び思考を深める場の設定】

- ・課題別のグループで話合うことで思考を深める。

7 単元構想（8時間扱い 本時8／8）



8 本単元における、主体的に考え、共に学び合う子供の姿

本単元における「主体的に考え、共に学び合う子供の姿」とは、様々な人々の工夫や努力によって水産物が消費者に届けられていることを理解し、日本の水産業の課題について気付き、友達と問題解決を協働的に行う姿であると考えます。

9 本時の目標（8／8）

- ・水産業に関わる人々の働き、変化や課題に対応する人々の工夫や努力について理解し、これからの水産業について考えることができる。

10 学習過程

	○学習活動・内容 T：教員の発問 C：児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） ★研究の視点
導入 3分	○前時までの学習を想起し、めあてを確認する。 T：日本の水産業はたくさん課題がありました。どのような課題がありましたか。 C：人手不足。水産資源の減少。	・人手不足・水産資源の減少・生産量の不安定さの3つを確認する。
	これから日本の水産業について考えよう。	
展開 37分	<p>○日本の水産業における課題の解決策を個人で考える。 T：日本の水産業の課題の解決策を付箋に書きましょう。 C：水産業に関わる人が減少しているからもっと水産業について知ってもらえるようにする。</p> <p>○小グループで水産業における課題を話し合う。 T：班で、自分の考えを共有しましょう。友達とどのような方法があるか話し合ってみましょう。 C：水産資源が減っているので、取り過ぎないように世界で話し合っていくべきだ。</p> <p>○課題別班に分かれ、さらによい解決策を話し合う。 T：課題ごとに分かれて、意見を整理させましょう。そこから、よりよい解決策を考えてみましょう。</p> <p>○課題別班で一番よいと思う解決策を決める。 T：たくさん出てきた考えの中から一番良いと思うものを班で決めましょう。決まったらロイロノートに提出しましょう。 C：生産量が不安定なので、養殖をもっと増やしていくべきだ。</p> <p>○課題班ごとに発表し、クラスで意見を共有する。 T：それぞれの課題班の考えを発表しましょう。</p>	<p>★考えを書く時には、例示し、参考にさせる。 【A主体的に取り組める学習課題の設定】</p> <p>★資料をロイロノートで配布し、児童が自分の手元で見えるようにする。【A主体的に取り組める学習課題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの最後に、班の中で自分が深く考えたい課題を選択させる。 ・付箋に解決策を書かせ、小グループごとに共通の台紙に整理させる。 <p>★課題を自分で選択をさせることで、主体的に取り組めるようにする。【C一人一人のよさや可能性を引き出す学び合いの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい解決策を思いついたら付箋に書くように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・どうしても1つに決められない場合は、2つにしてもよいこととする。 <p>・時間があれば、質疑応答の時間を設ける。</p>
まとめ 5分	○本時の学習を振り返る。 T：自分の解決策をノートに書きましょう。	◇今まで学習したことを生かして安全で質の高い水産物をこれからも生かし続けるための方法について自分の考えを表現している。（ノート）